

第35回 ナショナル・トラスト全国大会

海を想う

ナショナル・トラスト

— 報告書 —

さかなくん
登場!



2017.12.16 (土)

IKE・Bizイケビズ としま産業振興プラザ

後援 環境省

写真: (公財) 柿田川みどりのトラスト



公益社団法人
日本ナショナル・トラスト協会
The Association of National Trusts in Japan

ナショナル・トラスト全国大会は、多くの皆様にトラスト活動の取り組みについて知っていただくとともに、支援者の方やトラスト活動を行っている団体同士の交流や情報交換を主な目的として開催しています。

【日 時】2017年12月16日(土) 13:00～18:00

【会 場】IKE・Biz(イケビズ) 6F 多目的ホール
(東京都豊島区西池袋2-37-4)

【主 催】公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会

【後 援】環境省

【協 賛】(株)竹中工務店、三井住友信託銀行、Dream World

【参加者数】[第一部] 146名 [第二部] 42名



プログラム

第一部

13:00 開会挨拶 (公社)日本ナショナル・トラスト協会 会長 池谷奉文
(公社)日本ナショナル・トラスト協会 最高顧問 愛知和男

13:10 来賓挨拶 環境大臣 中川雅治氏

13:15 さかなクンのお話「お魚と水の環境について」

13:45 ナショナル・トラストについて
(公社)日本ナショナル・トラスト協会 事務局長 関健志

14:15 トラスト団体の取り組み
「森・磯・海のつながりを守る天神崎のトラスト活動」
(公財)天神崎の自然を大切にする会 理事 玉井済夫氏

14:45 休憩

14:55 トラスト団体の取り組み
「アユがいつまでものぼる清流を目指して 一柿田川の湧水を守るトラスト活動」
(公財)柿田川みどりのトラスト 理事 樫村昇氏
「軽井沢を見守る愛宕山 一人と自然と地域文化をつなぐ活動」
NPO法人 愛宕山てっぺんの森を守る会 理事長 加藤正文氏

15:55 閉会挨拶 (公社)日本ナショナル・トラスト協会 副会長 漆畑信昭

第二部

16:15-18:00 交流会 6F 第3会議室

第一部

開会挨拶

(公社)日本ナショナル・トラスト協会
会長

池谷 奉文



本日はお忙しい中、第35回全国大会にお集まりいただきありがとうございます。開催にあたり、ご後援いただいた環境省と、ご協賛いただいた企業の皆様に深く感謝申し上げます。

世界では今、自然と伝統が共存する持続可能な国をどうつくるかが最大の課題となっています。日本の国土のうち約68%は森林であるため、自然がたくさん残って

いるように見えますが、その多くはスギ・ヒノキ等による人工林です。単一な環境である人工林は自然の森と違って自然の質が低く、野の鳥たちが少なく、日本の森林は深閑としています。

このような状況にある中で、ナショナル・トラストは、トラスト団体が土地を取得することでその自然環境を守り再生していく有効な手段です。自然の森など今残っ

ている豊かな自然を取得するとともに、使わない人工林は自然の森に再生していく必要があります。そのためには、行政機関と協力しながら、また全国のトラスト団体と連携しながらトラスト活動を進めていくことが重要だと感じています。

当協会はこれからも、将来世代の子どもたちがいつまでも豊かに暮らしていけるよう、積極的に土地を取得し、トラスト活動の推進に力を入れていきます。今後とも、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

開会挨拶

(公社)日本ナショナル・トラスト協会
最高顧問

愛知 和男



35回目の全国大会に、全国各地からお集まりいただき誠にありがとうございます。私は当協会2代目の会長ですが、初代会長は本日お見えになっている中川環境大臣の義父にあたる原文兵衛さんでした。私が会長であった頃は、存続が危ぶまれたこともありました。いろいろな方のご尽力もあり、

おかげ様で今は活動も軌道に乗っております。自然を守るために、協会も自ら土地を所有するようになり、着々とその面積を増やしております。

日本のナショナル・トラスト運動の黎明期に、新聞というメディアを通じて国民に広く活動の意義を伝えた、当時新聞記者だった木

原啓吉氏(名誉会長・故人)の功績をはじめ、多くの方のご努力が実りまして、今日の協会があるわけでございます。改めて、そういった多くの方々のご努力に心から敬意を表したいと思います。

協会が自ら土地を持つという大きな一歩を踏み出しトラスト運動を展開しておりますが、まだまだ先の長い道のりです。多くの皆様のご参加、ご協力をいただきながら、大きく展開していくことを心から願っております。

来賓挨拶

環境大臣
中川 雅治 氏



第35回目となる全国大会が盛大に開催されることを心よりお祝い申し上げます。初代の日本ナショナル・トラスト協会の会長を務めた原文兵衛は私の義理の父です。35年前に環境庁長官を務め、日本にナショナル・トラストを根付かせることに尽力しました。今、私は環境大臣を拝命しております。皆様方とは深い御縁を感じます。

今大会のテーマは「海を想うナショナル・トラスト」ですが、ちょうど来年はサンゴ礁の生態系の価値について普及啓発する「国際サンゴ礁年」です。日本ナショナル・トラスト協会におかれましても「白保アオサンゴ・トラスト」を取得されるなど、海の保全に努力いただき感謝いたします。

環境省では2016年4月に、生

物多様性の観点から重要度の高い海域として321の海域を抽出し公表いたしました。今後、海洋保護区の設定を適切に推進するとともに、その管理の充実を図ってまいります。さらに、現在「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとして、国民の一人一人が日々の生活の中で自然の恵みを実感し、その恵みを引き継ぐ取り組みを国民全体で支えていく仕組みづくりを検討しています。

最後に、我が国のナショナル・トラスト活動のますますの発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

ナショナル・トラストについて

(公社) 日本ナショナル・トラスト協会
事務局長
関 健志



ナショナル・トラストは約100年前、イギリスで始まりました。その取り組みを参考に1964年、日本でも鎌倉でトラスト活動が始まり「御谷の森」が守られました。その後、50以上の地域にこの活動が広がっています。現在、全国組織である当協会の構成メンバーは34団体で、各地で様々なトラスト活動が展開されています。

当協会自らも2007年からトラスト地の取得を進めており、現在、全国に51カ所の土地を所有しています。その中のひとつ、沖縄県

の石垣島にあるトラスト地は、世界最大級のアオサンゴ群集がある白保の海に近い場所にあり、赤土や排水が海へと流れ出す際のクッションの役割を果たしています。海を守るためには陸側の土地利用が重要です。当協会はこの土地を「白保アオサンゴ・トラスト」と名付け、サンゴの海を守るトラスト地としてア

ピールしています。

本日は、天神崎の岬や柿田川の河畔林、軽井沢の愛宕山など、陸域の森を守っている団体に報告していただきますが、「森里川海」の視点から、トラスト活動による陸域の土地保全が、川を通じて海を守ることにもつながっていることに想いを馳せていただければと思います。



白保の海にあるアオサンゴ

お魚と水の環境について

東京海洋大学 名誉博士・客員准教授 さかなクン



今回の全国大会のテーマは「海を想うナショナル・トラスト」。東京海洋大学の名誉博士・客員准教授であり、海や魚の豊富な知識をお持ちのさかなクンに、全国大会メインプログラムのトップバッターとしてお話をいただきました。

冒頭、子どもたちの元気な呼びかけで登場したさかなクンに、会場から大きな拍手が起こります。自己紹介が終わり一段落すると、さっそくお魚クイズが始まりました。壇上のホワイトボードに貼られた大きな模造紙に、即興でさかなクンが魚の絵を描きます。魚の特徴やエピソード、水の環境との関係性などについてお話ししながら、あっという間にイラストができあがっていきます。さかなクンが会場の参加者に描かれた魚の名前を問いかけると、前方の席で目を輝かせていた子どもたちがすかさず手を挙げました。悩んだ素振りも

見せずに次々と正解していく子どもたちに、大人たちからは思わず感嘆の声があがりました。手作りのさかなクン衣装を着ていたり、大人顔負けの魚の知識を披露したりと、海の生き物が大好きな頼もしい子どもたちが集まっていました。

最後にさかなくんは、森・里・川・海がつながった自然の中でい

きいきと暮らす人々と生き物たち
を描いた記念イラストを見せてく
れました。

魅力的なイラストとお話により、森・里・川・海はみんなつながっていることや、自然を守ることの大切さについて、親しみを感じながら楽しく学ぶことができました。



ウグイのイラスト



トラスト団体の取り組み

森・磯・海のつながりを守る 天神崎のトラスト活動

(公財)天神崎の自然を大切にする会 理事 玉井 済夫 氏



天神崎を含めた田辺湾内は、複雑な海底地形がゆりかごとなり、黒潮に乗ってきた多くの南の生き物を育てている貴重な岬です。古くから漁師の人たちの間で「魚は緑が好きだ」と言い伝えられてきたように、海岸林は重要な役割を持っています。海岸林の落ち葉は土壌動物により分解され、栄養塩類となり、海に流れてプランクトンや海藻に利用されます。こうした食物連鎖により、多くの命が維持されています。



天神崎の海岸林

43年前、天神崎の小さな森の一角に50棟の別荘建設計画が出されました。道路を造るために木を切り、家を建てるためにまた木を切る計画でした。その時の保護活動が、今日の私たちの活動の始まりです。森が切られていくと、雨が降った際に土が海へ流失してしまいます。森がしっかり残っていればこれを防ぐことができます。森・磯・海はつながっているため、これらの環境を一带として守ることが重要であることから、会では当初から海岸林を買い取る活動を続けています。しかし、土地所有者や行政との関係などに非常に苦勞し、天神崎の保全に尽力した外山八郎氏が「バケツリレーだった」と表現したほどでした。

自然の維持管理としては、陸と海底での清掃活動や植樹を行っており、現在多くの地元市民の協力

があり、時には全国から約100名ものボランティア参加があります。また、未来への願いを込め、自然や生命の大切さを啓蒙する環境教育を進めています。



今後の課題は、引き続き保護地を拡大していくことと、森・磯・海の安定した生態系の維持です。私たちは天神崎の小さな自然を残すため、43年間という大変長い時間頑張ってきました。その間、全国の皆さまの暖かい支援をいただきましたことを深く感謝申し上げます。



天神崎の空撮写真。海岸林のすそに平らな磯が広がっている。



湿地ではカスミサンショウウオやハンゲショウが見られる。

アユがいつまでものぼる清流を目指して ー柿田川の湧水を守るトラスト活動ー

(公財) 柿田川みどりのトラスト 理事 樫村 昇 氏



柿田川の湧水は富士山からの伏流水で、伊豆半島の天城山系から流れてきた狩野川に合流したのち、駿河湾に注がれます。そのため柿田川は、川と海を行き来する回遊魚の比率が非常に多いという特徴があります。その代表的な種であるアユは、秋の産卵期になると柿田川に遡上しますが、このアユを狙って様々な生き物が集まってきます。いろんな生き物がこの生態系の中でアユの恩恵、ひいては柿田川の水の恩恵を受けています。



アユ

しかし年々、柿田川に遡上するアユは減少しています。柿田川の

自然だけでなく、これらの生き物の子どもたちが海に下り、戻ってこられるような経路をしっかりと整える必要があります。アユの漁獲量の正確な把握や、釣り人のための人工系アユの放流が本当に正しいのか等も、行政を含めて皆で考えていかなければならないと思っています。

柿田川を象徴する水草ミシマバイカモを守る活動としては、種を集め繁殖を助ける活動や、行政やボランティア、専門業者と協力して外来種駆除を進めています。水源の保全としては、1997年から湧水の上流域での植樹を開始し、これまでに23,273本が植えられました。富士山で拾った種から育てる苗は、シカに食べられないよう3mを超えるまで育てなければならず大変な重労働です。また、柿田川の河畔林を守るトラスト活動

として、今年度も1カ所、土地の買収を行う予定です。官学民の保護活動としては、国交省を事務局とした柿田川の自然再生に参加しています。



ミシマバイカモ

柿田川の生態系は非常に特異かつ希少であり、価値が高いものです。このような活動に大きな価値があることを、多くの人に分かってもらいながら、今後も官学民の意識レベルを合わせて有効な保護活動に結び付け、ナショナル・トラストの理念をベースに活動を続けていきたいと思っています。



富士山と柿田川の清流



湧水を調査中のダイバー

トラスト団体の取り組み

軽井沢を見守る愛宕山 — 人と自然と地域文化をつなぐ活動 —

NPO 法人 愛宕山てっぺんの森を守る会 理事長 加藤 正文 氏



愛宕山は300万年も前に隆起してできた山です。てっぺんには3つの神社があり、太古の昔から自然の不思議さ、素晴らしさなどを感じた人々の畏敬の念が込められている山だと思っています。



山頂付近の神社のひとつ

私どもの会は、2017年1月にNPO法人に承認されたばかりの新しい団体で、活動の目的は愛宕山の山頂付近を買い取って保護することです。本年注力した活動は2つあります。

1つ目は認定NPO法人を目指すことで、広報デスクの設置を通

じて会員拡大に努めました。国道沿いのカフェに広報デスクを置かせていただき、その運営を収益事業として担わせていただきました。ここでは毎週音楽ライブを実施し、集まった方々を賛助会員にお誘いしています。おかげ様で170名の会員を得ることができました。



カフェでの音楽ライブ

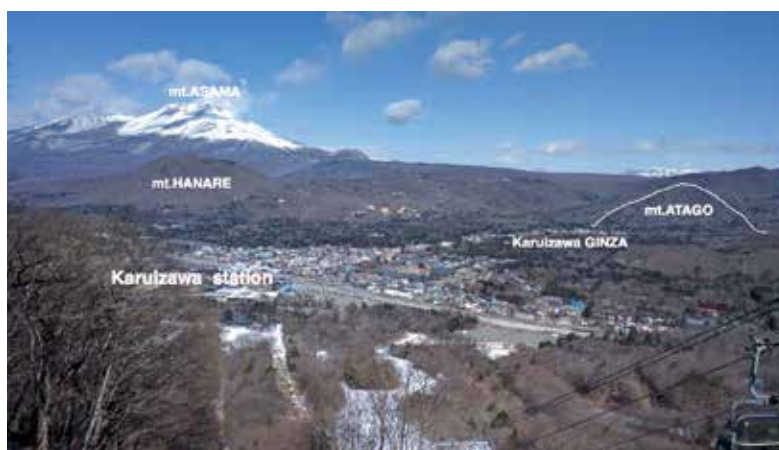
2つ目は動植物の生態調査を行うことで、専門家や地元ボランティアと7回にわたり、カモシカやツキノワグマ、絶滅危惧種のオニヒョウタンボクなどの生息を確認しました。当会クラブハウス前

の森に現れたフクロウも確認できました。また、ナショナル・トラスト活動助成を受け、その資金で愛宕山の山頂約50,000㎡のうち、6,000㎡を買い取れることになりました。

他にも、散策ツアーの開催や地域のイベントへの出展、企業との連携などの活動を通して、人・自然・地域文化を一つに結ぶというコンセプトが浮かんできました。今後の目標は、愛宕山から始まる軽井沢物語と題した本を作ることと、大学の環境系の学部と連携できるようにすることです。地域文化産業を自然保護活動につなげる環境づくりも計画しています。今後も、愛宕山から発信するコンテンツの価値を高めながら、森を購入し後世に残すナショナル・トラスト活動に力を入れていきたいと思っています。



人・自然・地域文化を一つに結ぶというコンセプトと今後の課題。



右に見える山が愛宕山。浅間山・離れ山と共に軽井沢を代表する山で、愛宕山の裾野地域を皮切りに軽井沢地域は発展した。

閉会挨拶

(公社)日本ナショナル・トラスト協会
副会長

漆畑 信昭



35年の歴史の中で、今回初めて海をテーマとしたナショナル・トラスト全国大会を開催し、関係団体による活動報告を行いました。視野を広げ、海に関わりを持つということは非常に大切だと思います。

今、日本では各地で磯焼けが問題になっています。昆布などの海藻が鉄分の不足でとれなくなっており、その原因は、国の方針でブ

ナ、ミズナラの広葉樹を伐採し、スギ、ヒノキの針葉樹林に森を変えてしまったからです。ご承知のように、落葉広葉樹では落ち葉が何層も積み重なっており、その下は腐葉土になっています。そこに雨が降ると、その水が腐葉土を通り鉄分等のミネラルを含んだ水となって、やがて川になり海に下ります。そうすると、まず磯にマコモや昆布がたくさんはえ、そこが

多くの生き物のすみかになります。プランクトンを大量に発生させますので、それらを餌としている魚や貝類がたくさん繁殖し、大きな漁場を形成します。

私たちはトラスト運動を通じて、山に木を植えること、そして豊穠な海にすることが必要ではないかと思います。気仙沼の漁業者で、山に木を植えてがんばっている畠山重篤さんの「森は海の恋人である」というこの言葉を使わせていただいて、閉会の挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。



第二部

交流会には、講演者の方々をはじめ、各地のトラスト団体・自然保護団体の関係者や支援者の皆様など、42名の参加がありました。各地のトラスト団体による近況報告のほか、参加者同士の情報交換や交流が賑やかに行われました。

参加した会員団体（50音順）

NPO 法人 愛宕山てっぺんの森を守る会

（公財）柿田川みどりのトラスト

（公財）かながわトラストみどり財団

（公財）埼玉県生態系保護協会

（公財）妻籠を愛する会

（公財）天神崎の自然を大切にする会

（公財）日本生態系協会

（公財）日本野鳥の会

はちのへ小さな浜の会

NPO 法人 富士山ナショナル・トラスト



台湾ナショナルトラストの王会長から、100年の歴史を持つ、日本の伝統的な木造建築様式で建てられた「新北投駅舎（台湾・台北市）」の買い戻し、修復の記念品をいただきました。



公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

Tel.03-5979-8031 Fax.03-5979-8032

2018年1月発行 禁無断転載

信託で守る ナショナル・トラスト

信託とは、英語で“トラスト”——
三井住友信託銀行では
信託を通じ、トラスト地の購入を支援しています。



人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

かつて先人たちが理想を追い、

実現してきたデザインや技術は、

現代に伝統として受け継がれています。

竹中工務店は、その伝統を尊びながら、

常に新しい価値や試みを取り入れ、

革新的なデザインや技術を

創り出すことを目指しています。

人と自然が共に豊かになるには

どうしたらいいのか、

未来の環境をつくる使命を持って

新しい建築を世に送りだしていきたい。

そして、10年後、20年後、100年後、

その建物が「新しい伝統」になり、

未来の建築家たちの

礎になることを願っています。

「最良の作品を世に遺し、

社会に貢献する」

竹中工務店は、この経営理念のもと、

建築の可能性を追い求めていきます。

写真：竹中大工道具館 設計施工：竹中工務店
兵庫県神戸市、六甲山の麓にある日本で唯一の
大工道具の博物館。

想いをかたちに 未来へつなぐ

 **TAKENAKA**